

生物多様性及び生態系サービスの総合評価 2020 の指標及び評価一覧

本資料では、JBO2 との比較による JBO3 の指標一覧、指標の更新状況、評価結果を章毎に示す。

生物多様性及び生態系サービスの評価方法

【要因の評価】

評価対象	凡 例			
評価期間における影響力の大きさ	弱い	中程度	強い	非常に強い
				
影響力の長期的傾向 及び現在の傾向	減少	横ばい	増大	急速な増大
				

【状態の評価】

評価対象	凡 例			
損失の大きさ	弱い	中程度	強い	非常に強い
				
状態の傾向	回復	横ばい	損失	急速な損失
				

【生態系サービスの変化の評価】

評価対象		凡例				
享受して いる量の 傾向		増加	やや増加	横ばい	やや減少	減少
	定量評価結果					
	定量評価に用いた情報 が不十分である場合					

【対策の評価】

評価対象	凡 例		
対策の傾向	増加	横ばい	減少
			

注：視覚記号による表記に当たり捨象される要素があることに注意が必要である。

注：評価の破線表示は情報が十分ではないことを示す。

注：生態系サービスの評価において、矢印を破線で四角囲みしてある項目は評価に用いた情報が不十分であることを示す。

第Ⅱ章 わが国の社会経済状況（間接要因）

評価項目			指標	○：新規 △：更新	JBO2			JBO3												
					長期的傾向		影響力の 大きさと 現在の傾向	長期的傾向		影響力の 大きさと 現在の傾向										
					過去50 年～20 年の間	過去20 年～現在 の間		過去50 年～20 年の間	過去20 年～現在 の間											
価値観と行動（社会文化・社会心理）	社会文化・社会心理	自然に対する関心	生物多様性の認知度	△					-	⬇	⬇									
			生物多様性国家戦略の認知度	○																
			自然に対する関心度	△																
			生物多様性のための取組に対する意識	△																
			地球環境問題に関する関心	○																
			ボランティア人口に占める環境活動の割合	○																
		地域に対する関心	現在の地域での付き合いの程度	○																
			ボランティア人口に占めるまちづくり活動の割合	○																
	自然的要因による価値観と行動の変化	自然災害	災害被害の具体的イメージ	○					-	⬇	⬆									
			森林に期待する働き	○																
			感染症リスク	ペットを飼わない理由								○								
	ライフスタイルの変化	住宅・住生活	住宅着工戸数と木材率	○					-	⬇	⬆									
			耐久消費財（乗用車含む）の普及率	○																
		食生活	食品群別摂取エネルギー比率の年次推移	○																
			外食産業の売上高・外食率	○																
			食品ロスの推計値	○																
			年間総実労働時間	○																
		労働	労働生産性	○																
			テレワークの導入状況の推移	○																
			自然体験の状況	○																
		余暇活動	余暇の参加人口推移	○																
			子どもの遊び場、外で遊ぶ頻度	○																
			人口	人口動態								総人口	○					⬇	⬇	⬇
		年齢別人口										○								
世帯員数	○																			
合計特殊出生率	○																			
平均寿命・健康寿命	○																			
	○																			
人口移動	定住人口	三大都市圏への定住人口移動の推移		○					⬇	⬇	⬇									
		三大都市圏の人口密度		○																
		DID人口及び面積		○																
		過疎地域人口の推移		○																
		ふるさと回帰支援センターへの相談件数		○																
		田園回帰の状況		○																
		交流人口		国内観光客数の推移								○								
				旅行・行業の種類別行動者率								○								
	旅客数			○																
	ボランティア人口			○																
	関係人口	地域おこし協力隊の参加人数		○																
		各都道府県の出身者の構成		○																
		帰省旅行の参加人口		○																
		棚田オーナー制度の実施状況		○																

※JBO2 時点と評価結果が変わった箇所を黄色の網掛けで示す。

評 価 項 目			指 標	○:新規 △:更新	JBO2			JBO3									
					長 期 的 傾 向		影響力の 大きさと 現在の傾 向	長 期 的 傾 向		影響力の 大きさと 現在の傾 向							
					過去50 年～20 年の間	過去20 年～現在 の間		過去50 年～20 年の間	過去20 年～現在 の間								
経 済	経済状況		実質GDP成長率	○													
			ジニ係数と相対的貧困率	○													
			完全失業率	○													
	資本	人工資本	固定資本ストック	○													
			道路延長	○													
			インターネットの利用状況(家庭・企業)	○													
		人的資本	高校・大学への進学率	○													
			教育の多様化—コミュニティスクールの導入・推進状況	○													
			教育の多様化—アクティブラーニングスペースのある大学数	○													
	産業	産業構造	産業構造別従事者数	○													
			全経済活動に占める農林水産業の割合	○													
		生産と消費	重要視する豊かさ	○													
			シェアリングエコノミーの市場規模	○													
			家計消費とその内訳	○													
			日本の広告費	○													
			プラスチック製品の生産量	○													
			通信販売における地方特産品・産直品の購入経験・購入希望	○													
			伝統産業	○													
			地域の文化資源に対する意識	○													
		技術・エネルギー	第一次産業に関する技術	一経営体当たりの経営耕地面積							○						
				農業機械の普及率							○						
	その他の技術		日本の資源生産性	○													
			ICT技術に対する投資額	○													
			AI関連発明の出願状況	○													
			AR/VR市場規模の推移	○													
	エネルギー		エネルギーミックスの変化	○													
			エネルギー自給率	○													
		最終エネルギー消費の構成	○														
		一世帯当たりの電力消費量の推移	○														
	グローバリゼーション	物のグローバルな移動	国際貿易額	○													
			貨物輸入量	○													
			食料・木材自給率	○													
			パルプの輸入量	○													
			木質ペレット輸入量	○													
			パーム油輸入量	○													
		人のグローバルな移動	外国人労働者数の推移	○													
訪日外国人観光客数の推移			○														
訪日外国人観光客が日本滞在中にしたこと			○														
資金フロー			ESG投資の総額	○													
			個人向け金融商品におけるサステナブル投資残高	○													
			建設投資額	○													
	道路維持管理費	○															
	農業基盤整備費	○															
	地方交付税交付金	○															
	ふるさと納税の受け入れ額及び受け入れ件数	○															

※JBO2 時点と評価結果が変わった箇所を黄色の網掛けで示す。

評価項目		指標	○:新規 △:更新	JBO2			JBO3		
				長期的傾向		影響力の 大きさと 現在の傾向	長期的傾向		影響力の 大きさと 現在の傾向
				過去50 年～20 年の間	過去20 年～現在 の間		過去50 年～20 年の間	過去20 年～現在 の間	
制度とガバナンス	個人や組織での制度・ガバナンス	分野別NPO認証数	○				⬇	⬇	⬇
		環境に配慮した企業の取り組みの状況	○				⬇	⬇	⬇
	地域レベルでの制度・ガバナンス	自治会数	○				⬇	⬇	⬇
		消滅した集落の数	○				⬇	⬇	⬇
		都道府県別地方公共団体の環境部門職員数	○				⬇	⬇	⬇
		財産区の決算状況	○				⬇	⬇	⬇
	国家レベルでの制度・ガバナンス	World Bank Governance Indicators	○				⬇	⬇	⬇
		一般職国家公務員数	○				⬇	⬇	⬇
		ジェンダー・ギャップ指数	○				⬇	⬇	⬇

※JBO2 時点と評価結果が変わった箇所を黄色の網掛けで示す。

第 III 章 生物多様性の損失要因の評価

評価項目		指標 (※:当該指標は文献等の結果を用いて評価しているため、詳細出典は本文中に記載し、本付属書においては取り扱わない)	○:新規 △:更新	JBO2			JBO3		
				長期的傾向		影響力の 大きさと 現在の傾向	長期的傾向		影響力の 大きさと 現在の傾向
				過去50 年～20 年の間	過去20 年～現在 の間		過去50 年～20 年の間	過去20 年～現在 の間	
第1の危機	B1 生態系の開発・改変	□B1-1 土地利用面積	△						
		□B1-2 1960年代と2000年代の陸域における生態系の規模の比較※							
		□B1-3 1980年代から1990年代までの土地利用の変化※							
		□B1-4 改変の少ない植生の分布※							
		□B1-5 20世紀初頭から1980年代までの土地利用の変化※							
		□B1-6 過去の開発により消失した生態系(長期的な土地利用変化)※		⬇	⬇	⬇	⬇	⬇	⬇
		□B1-7 過去の開発により消失した生態系(短期的な土地利用変化)(1970年代から2000年代にかけての土地利用変化)※		⬇	⬇	⬇	⬇	⬇	⬇
		□B1-8 農地(耕地)から宅地・工場用地などへの転用面積(人為的廃棄面積)	△						
		□B1-9 林地からの都市的土地利用への転換面積(目的別用途)	△						
		□B1-10 砂利等の採取量	△						
		□B1-11 陸水域・沿岸域における生態系の規模等※							
	B3 絶滅危惧種の減少要因	□B3-1 分類群ごとの絶滅種・野生絶滅種・絶滅危惧種の割合	△						
		□B3-2 絶滅種・野生絶滅種の年代と種名(動物)	△						
		□B3-3 年代別の絶滅種数(維管束植物)※							
		□B3-4 絶滅種・野生絶滅種の年代と種名(維管束植物)※							
		□B3-5 レッドデータブック掲載種(維管束植物)の都道府県別種数※		⬇	⬇	⬇	⬇	⬇	⬇
		□B3-6 生物分類群ごとの絶滅危惧種の減少要因							
		□B3-7 絶滅種・野生絶滅種の絶滅要因							
		□B3-8 日本の干潟環境に悪影響を及ぼしている主要な要因とそれぞれの干潟環境における相対的重要性度※							

※JBO2 時点と評価結果が変わった箇所を黄色の網掛けで示す。

評価項目		指標 (※:当該指標は文献等の結果を用いて評価しているため、詳細出典は本文中に記載し、本付属書においては取り扱わない)	○:新規 △:更新	JBO2			JBO3		
				長期的傾向		影響力の 大きさと 現在の傾向	長期的傾向		影響力の 大きさと 現在の傾向
				過去50 年～20 年の間	過去20 年～現在 の間		過去50 年～20 年の間	過去20 年～現在 の間	
第2 の危機	B6 里地里山の管理・利用の縮小	□B6-1 薪炭の生産量	△						
		□B6-2 竹林が分布する可能性の高い地域※							
		□B6-3 耕作放棄地面積							
第2 の危機	B7 野生動物の直接的利用の減少	□B7-1 狩猟者数	△						
		□B7-2 野生動物の生息地							
		□B7-3 野生動物の生息地							
第2 の危機	B4 絶滅危惧種の減少要因(第2の危機)【再掲】	□B4-1 分類群ごとの絶滅種・野生絶滅種・絶滅危惧種の割合【再掲】							
		□B4-2 絶滅危惧種の割合【再掲】							
		□B4-3 絶滅危惧種の割合【再掲】							
第3 の危機	B9 外来種の侵入と定着	□B9-1 外来昆虫・外来雑草の侵入・定着種数の変化※							
		□B9-2 海外から輸入される「生きている動物」等の輸入量	△						
		□B9-3 海外から輸入される「生きている動物」の近年の輸入数	△						
第3 の危機	B2 水域の富栄養化	□B2-1 湖沼・海域における全窒素濃度及び全リン濃度及び達成状況	△○						
		□B2-2 大気経路の窒素の影響※							
		□B2-3 東京湾、伊勢湾、瀬戸内海における陸域からの窒素・リン汚濁負荷量 ※暫定値を含む	○						
第3 の危機	B10 化学物質による生物への影響	□B10-1 主要汚染物質の検出状況の経年推移(魚類・貝類)	△						
		□B10-2 殺虫剤・殺菌剤・除草剤の国内使用量の推移	○						
		□B10-3 富山県、石川県、静岡県におけるアキアカネの個体数※	○						
第3 の危機	B4 絶滅危惧種の減少要因(第3の危機)【再掲】	□B4-1 分類群ごとの絶滅種・野生絶滅種・絶滅危惧種の割合【再掲】							
		□B4-2 絶滅危惧種の割合【再掲】							
		□B4-3 絶滅危惧種の割合【再掲】							
第4 の危機	B32 地球環境の変化の状態	□B32-1 日本の二酸化炭素排出量※	○						
		□B32-2 年平均気温※	○						
		□B32-3 日降水量100mm以上の日数の出現頻度※	○						
第4 の危機	B12 地球温暖化による生物への影響	□B12-1 沖縄本島周辺のサンゴ被度※	○						
		□B12-2 アボイ岳の高山植物の減少※	○						
		□B12-3 チョウ類の分布の変化※	○						
第4 の危機	B12 地球温暖化による生物への影響	□B12-4 南方チョウ類(イシガケチョウ・ナガサキアゲハなど)の分布域の変遷と個体数の変化※	○						
		□B12-5 タイワンウチヤンマの分布の変化※	○						
		□B12-6 福岡県筑前海岸の魚類相の変化※	○						
第4 の危機	B12 地球温暖化による生物への影響	□B12-7 越冬期におけるコハクチョウの全国の個体数の変化※	○						
		□B12-8 越冬期におけるヒシクイの個体数の変化※	○						
		□B12-9 ソメイヨシノの開花日の変化と気温の関係※	○						
第4 の危機	B12 地球温暖化による生物への影響	□B12-10 ハイマツの年枝伸長量の推移※	○						
		□B12-11 キビタキの個体数の変化※	○						
		□B12-12 モウソウチクの分布範囲※	○						
第4 の危機	B4 絶滅危惧種の減少要因(第4の危機)【再掲】	□B4-1 分類群ごとの絶滅種・野生絶滅種・絶滅危惧種の割合【再掲】							
		□B4-2 絶滅危惧種の割合【再掲】							
		□B4-3 絶滅危惧種の割合【再掲】							

※JBO2 時点と評価結果が変わった箇所を黄色の網掛けで示す。

第 IV 章 生物多様性の損失の状態の評価

評価項目		指標 (※: 当該指標は文献等の結果を用いて評価しているため、詳細出典は本文中に記載し、本付属書においては取り扱わない)	○: 新規 △: 更新	JBO2			JBO3		
				長期的傾向		影響力の 大きさと 現在の傾向	長期的傾向		影響力の 大きさと 現在の傾向
				過去50 年～20 年の間	過去20 年～現在 の間		過去50 年～20 年の間	過去20 年～現在 の間	
森林生態系	B16 森林生態系の規模・質	□B16-1 森林面積(天然林・人工林)	△	↓	↘	→	↓	↘	→
		□B16-2 人工造林面積	△						
		□B16-3 シカの分布とその拡大予測※							
		□B16-4 イノシシの分布とその拡大予測※							
		□B16-5 松くい虫被害量(被害材積)	△						
		□B16-6 国土を特徴づける自然生態系を有する地域※							
	B18 森林生態系に生息・生育する種の個体数・分布	□B18-1 ヒグマ・ツキノワグマの分布変化※		↘	↘	↘	↘	↘	↘
		□B18-2 シカの影響による托卵鳥の個体数変化※	○						
		□B18-3 希少動植物の採取圧の現状と過去の傾向※	○						
	B19 人工林の利用と管理	□B19-1 森林蓄積(天然林・人工林)	△	→	↘	↘	→	→	→
		□B19-2 針葉樹・広葉樹別国内素材生産量	△						
		□B19-3 世界と日本の森林面積の変化	△						
農地生態系	B20 農地生態系の規模・質	□B20-1 耕地面積	△	↓	↘	↘	↓	↘	↘
		□B20-2 水田整備面積及び水田整備率※							
		□B20-3 農薬・化学肥料の生産量	△						
		□B20-4 里地里山地域(農地とその他の土地被覆のモザイク性を指標とした里地里山地域の分布)※							
		□B20-5 森林以外の草生地(野草地)の面積	△						
		□B20-6 全国のため池数の変化※							
	B21 農地生態系に生息・生息する種の個体数・分布	□B21-1 秋期の渡りにおける内陸性のシギ、チドリの個体数の傾向※	○	↘	↘	↘	↘	↘	↘
		□B21-2 トキ・コウノトリの野生個体数	○						
		□B21-3 里地里山を主な生息地とするチョウ類の個体数増減※	○						
	B22 農作物・家畜の多様性	□B22-1 アワ、ヒエ(雑穀類)の作付面積	△	↘	↘	↘	↘	→	→
都市生態系	B23 都市緑地の規模	□B23-1 三大都市圏の土地利用	△	↘	→	→	↘	→	→
		□B23-2 東京都特別区の緑被率※							
		□B23-3 都市公園の面積	△						
		□B23-4 緑の多い都市域※							
		□B23-5 都市域における水と緑の公的空間確保量※	○						
	B24 都市生態系に生息・生育する種の個体数・分布	□B24-1 東京都におけるヒバリの分布の変化※		↘	→	→	↘	→	→
		□B24-2 東京都におけるメジロの分布の変化※							
		□B24-3 東京都におけるハシトガラスの分布の変化※							
		□B24-4 明治神宮における鳥類の確認頻度							
		□B24-5 住宅地におけるムクドリ個体数変化※	○						
陸水生態系	B25 陸水生態系の規模・質	田25-1 明治大正時代から現在の湿原面積の変化※		↓	↘	→	↓	↘	→
		田25-2 釧路湿原の湿原面積の変化※							
		田25-3 1920年、1950年、2000年代の湿地面積変化※							
		田25-4 主要湖沼における干拓・埋立面積※							
		田25-5 琵琶湖周囲の土地利用変遷※							
		田25-6 河床の低下及び河道外への土砂の搬出※							
		田25-7 霞ヶ浦、琵琶湖におけるアオコの発生件数	○						
		田25-8 地下水環境基準(硝酸、亜硝酸)の達成状況 [%]	○						
		田25-9 閉鎖性水域における環境基準(COD)の達成度	○						
	B27 陸水生態系に生息・生育する種の個体数・分布	田27-1 国内40湖沼における在来淡水魚類の種多様性の変化※		↘	↘	↘	↘	↘	↘
		田27-2 国内20湖沼における過去50年間のCPUE(資源量の指数)※							
		田27-3 全国の湖沼におけるシャジクモの確認種数※							
		田27-4 湖沼の水草変化※							
		田27-5 一級河川における外来種の確認種数	△						
		田27-6 カエル・ホタルの個体数変化	○						

評価項目		指標 (※:当該指標は文献等の結果を用いて評価しているため、詳細出典は本文中に記載し、本付属書においては取り扱わない)	○:新規 △:更新	JBO2			JBO3		
				長期的傾向		影響力の 大きさと 現在の傾向	長期的傾向		影響力の 大きさと 現在の傾向
				過去50 年～20 年の間	過去20 年～現在 の間		過去50 年～20 年の間	過去20 年～現在 の間	
沿岸・海洋生態系	B28 沿岸生態系の規模・質	□B28-1 沿岸生態系の規模の変化※							
		□B28-2 浅海域の埋立面積	△						
		□B28-3 堤防・護岸等の延長及びその割合※							
		□B28-4 自然・半自然・人工海岸の延長※							
		□B28-5 日本の5海岸(仙台、新潟、柏崎、高知、宮崎)における過去の長期汀線変化※							
		□B28-6 干潟面積※							
		□B28-7 東京湾及び瀬戸内海の干潟面積※							
		□B28-8 藻場面積※							
		□B28-9 藻場・干潟の機能低下や減少による水産資源の減少※		↓	↘	↘	↓	↘	↘
		□B28-10 石西礁湖におけるサンゴ被度の変化の事例※							
		□B28-11 東経137度線に沿った冬季の表面海水中の水素イオン濃度(pH)の長期変化※							
		□B28-12 砂浜の侵食速度の変化※							
		□B28-13 東京都内湾、伊勢湾、瀬戸内海、有明海、八代海における赤潮の発生件数	○						
		□B28-14 閉鎖性海域における環境基準(BOD又はCOD)の達成度	△						
		□B28-15 海鳥営巣数の変化	○						
		□B28-16 東京湾、伊勢湾、瀬戸内海における省酸素域の分布状況	○						
	B29 浅海域を利用する種の個体数・分布	田29-1 秋季の渡りで日本を通過するシギ、チドリの個体数の傾向※	○	↓	↘	↘	↓	↘	↘
		田29-2 カレイ類の漁獲量	△						
	B30 有用魚種の資源の状況	田30-1 我が国周辺水域の漁業資源評価	△	?	→	↘	?	→	↘
		田30-2 漁獲量と海洋食物連鎖指数(MTI)	△						
島嶼生態系	B31 島嶼の固有種の個体数・分布	田31-1 南西諸島における固有種とその絶滅危惧種の割合	△						
		田31-2 小笠原諸島における固有種とその絶滅危惧種の割合	△						
		田31-3 南西諸島における絶滅危惧種の減少要因		?	↘	↘	?	↘	↘
		田31-4 奄美大島及び沖縄島やんばる地域アマミノクロウサギ及びヤンバルクイナの生息状況※	○						
		田31-5 ツシマヤマネコの野生個体数※	○						
生態系の連続性	B17 森林生態系の連続性	□B17-1 森林が連続している地域※		↘	→	→	↘	→	→
	B33 農地生態系の連続性	B33-1 哺乳類在来種の撮影個体数変化(モニタリングサイト1000里地調査)※	○						
	B26 河川・湖沼の連続性	田26-1 1900年以降のダムの竣工数及び累積総貯水量※							
		田26-2 河川の連続性※							
		田26-3 河川水際線の状況※		↓	↘	→	↓	↘	→
		田26-4 1990年頃の主な湖沼の湖岸の改変状況※							
		田26-5 琵琶湖のヨシ群落の面積の変化※							

※JBO2 時点と評価結果が変わった箇所を黄色の網掛けで示す。

第Ⅴ章 人間の福利と生態系サービスの変化

	指標	○:新規 △:更新	人間の福利の評価に用いた指標				JBO2		JBO3	
			豊かな暮らしの基盤	自然とのふれあいと健康	暮らしの安全・安心	自然とともにある暮らしと文化	過去50年～20年の間	過去20年～現在の間	過去50年～20年の間	過去20年～現在の間
供給サービス	P1農産物	CP1-1 水稲の生産量	△	●						
		CP1-2 水稲の生産額	△	●						
		CP1-3 小麦・大豆の生産量	△	●						
		CP1-4 麦類・豆類の生産額	△	●						
		CP1-5 野菜・果実の生産量	△	●						
		CP1-6 野菜・果実の生産額	△	●						
		CP1-7 農作物の多様性	△	●						
		CP1-8 コメ品種の多様性	○	●						
		CP1-9 畜産の生産量	△	●						
		CP1-10 畜産の生産額	△	●						
	P2特用林産物	CP2-1 松茸・竹の子の生産量	△	●						
		CP2-2 椎茸原木の生産量	△	●						
	P3水産物	CP3-1 海面漁業の生産量	△	●						
		CP3-2 海面漁業の生産額	△	●						
		CP3-3 海面養殖の生産量	△	●						
		CP3-4 海面養殖の生産額	△	●						
		CP3-5 漁業種の多様性	△	●						
		CP3-6 内水面漁業の生産量	△	●						
		CP3-7 内水面漁業の生産額	△	●						
		CP3-8 内水面養殖の生産量	△	●						
		CP3-9 内水面養殖の生産額	△	●						
	P4淡水	CP4-1 取水量	△	●			-	→	-	→
	P5木材	CP5-1 木材の生産量	△	●						
		CP5-2 木材の生産額	△	●						
		CP5-3 生産樹種の多様性	△	●						
		CP5-4 森林蓄積	△	●						
		CP5-5 薪の生産量	△	●						
		CP5-6 木質粒状燃料の生産量	△	●						
	P6原材料	CP6-1 竹材の生産量	△	●						
		CP6-2 木炭の生産量	△	●						
		CP6-3 繭の生産量	△	●						
		CP6-4 養蚕の生産額	△	●						
	P7遺伝資源	CP7-1 農研機構遺伝資源センターにおける遺伝資源保存数	○	●			-	-	-	-
調整サービス	R1気候の調節	CR1-1 森林の炭素吸収量		●						
		CR1-2 森林の炭素吸収の経済価値		●						
		CR1-5 蒸発散量		●						
		CR1-6 都市緑化等による温室効果ガス吸収量	○	●						
	R2大気の調節	CR2-1 NO ₂ 吸収量		●						
		CR2-2 NO ₂ 吸収の経済価値		●						
		CR2-3 SO ₂ 吸収量		●						
		CR2-4 SO ₂ 吸収の経済価値		●						
	R3水の調節	CR3-1 地下水涵養量		●			-	→	-	→
	R4土壌の調節	CR4-1 土壌流出防止量		●						
		CR4-2 窒素維持量		●						
		CR4-3 リン酸維持量		●						
	R5災害の緩和	CR5-1 洪水調整量		●						
		CR5-2 表層崩壊からの安全率の上昇度		●						
		CR5-3 海岸の防災に資する保安林の面積		●						
	R6生物学的コントロール	CR6-1 花粉媒介種への依存度	△	●						
		CR6-2 生物農薬の登録状況	○	●						

※JBO2 時点と評価結果が変わった箇所を黄色の網掛けで示す。

		指標		○:新規 △:更新	人間の福利の評価に用いた指標				JBO2		JBO3	
					豊かな暮らしの基盤	自然とのふれあいと健康	暮らしの安全・安心	自然とともにある暮らしと文化	過去50年～20年の間	過去20年～現在の間	過去50年～20年の間	過去20年～現在の間
文化的サービス	C1 宗教・祭	□C1-1	地域の神様の報告数					●	↓	↘	↓	↘
		□C1-2	地域の行事や祭りの報告数					●				
		□C1-3	シキミ・サカキの生産量	△				●				
		□C1-4	年別・樹種別の巨樹・巨木数の変化	○				●				
	C2 教育	□C2-1	子供の遊び場の報告数					●	↘	→	↘	→
		□C2-2	環境教育 NGO 数	△				●				
		□C2-3	図鑑の発行部数					●				
	C3 景観	□C3-1	景観の多様性					●	—	↘	—	↘
	C4 伝統芸能・伝統工芸	□C4-1	伝統工芸品の生産額	△				●	↘	↘	↘	↘
		□C4-2	伝統工芸品従業者数	△				●				
		□C4-3	生漆の生産量	△				●				
		□C4-4	酒類製成量の推移	△				●				
		□C4-5	地ビール・濁酒製成場数の推移	△				●				
		□C4-6	食文化の地域的多様性	△				●				
	C5 観光・レクリエーション	□C5-1	レジャー活動参加者数			●		●	↗	↘	↗	↘
		□C5-2	国立公園利用者数	△		●		●				
国外依存	I 国外依存	□I-1	エコロジカル・フットプリント	△	●				—	—	—	—
ディスプレイサービス	D ディスサービス	□D-1	野生鳥獣による農作物被害額、対策予算額、被害防止計画作成市町村数	△	●				—	↗	—	→
		□D-2	各野生鳥獣による農作物被害額	△	●							
		□D-3	クマ類による人的被害	△			●					
		□D-4	ハチによる人的被害	△			●					
		□D-5	ダニ媒介感染症の患者数等	○			●					

※JBO2 時点と評価結果が変わった箇所を黄色の網掛けで示す。

第 VI 章 生物多様性の損失への対策

評価項目			指標 (※:当該指標は文献等の結果を用いて評価しているため、詳細出典は本文中に記載し、本付属書においては取り扱わない)	○:新規 △:更新	JBO2			JBO3		
					長期的傾向		影響力の 大きさと 現在の傾向	長期的傾向		影響力の 大きさと 現在の傾向
					過去50 年～20 年の間	過去20 年～現在 の間		過去50 年～20 年の間	過去20 年～現在 の間	
第1の危機から第4の危機への対応	第1の危機への対策	B4 保護地域	□B4-1 主な保護地域の面積	△						
			□B4-2 各生態系の保護地域カバー率(指定主体別)※							
			□B4-3 保護地域と重要地域のギャップ(保護地域と国土を特徴づける自然生態系とのギャップ)※							
			□B4-4 鳥類の種数の分布※		↗	↗	→	↗	↗	→
			□B4-5 魚類の保護候補地※							
			□B4-6 ナショナル・トラストによる保全地域の箇所数及び面積※	○						
			□B4-7 日本のサンゴ礁、藻場、干潟等における各種指定区域の面積	○						
			□B4-8 海洋保護区面積 [km2]	○						
	第2の危機への対策	B5 捕獲・採取規制、保護増殖事業	□B5-1 「種指定天然記念物」と「国内希少野生動植物種」の指定数	△						
			□B5-2 都道府県版レッドリスト・レッドデータブックと希少種条例を作成・制定した都道府県数	△	↗	↗	→	↗	↗	↗
			□B5-3 国内における森林認証面積	△						
			□B5-4 シジュウカラガンの上位5地点における個体数の経年変化※	○						
			□B5-5 脊椎動物、昆虫、維管束植物の各分類群における生息域外保全の実施されている種数※	○						
	第3の危機への対策	B8 野生鳥獣の科学的な保護管理	□B8-1 特定計画の策定状況※		→	↗	↗	→	↗	↗
			□B11-1 特定外来生物、未判定外来生物及び生態系被害防止外来種リストの種類	△						
		B11 外来種の輸入規制、防除	□B11-2 都道府県の防除の確認・認定件数	△						
			□B11-3 奄美大島及び沖縄島やんばる地域におけるマングースの捕獲頭数及び捕獲努力量当たりの捕獲頭数	○	→	↗	↗	→	↗	↗
			□B11-4 外来鳥類3種が確認された調査サイトの割合の推移	○						
			□B11-5 外来鳥類・哺乳類の撮影個体数変化(モニタリングサイト1000里地調査)※	○						
			□B11-6 地方自治体における外来種に関するリストの作成と条例の整備	○						

※JBO2 時点と評価結果が変わった箇所を黄色の網掛けで示す。